

補助事業概要の広報資料

補助事業番号 23-1-001

補助事業名 平成23年度 自転車競技の普及促進

補助事業者名 財団法人 ツール・ド・北海道協会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

我が国における自転車競技の発展に資するため、その普及推進を図りもって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

大会の概要

ア. 開会式及び最終表彰式

a. 開会式

平成23年9月16日(金)帯広市中央公園



帯広市・米沢 則寿市長
(写真中央)



邱 基金チーフコミッセル
(写真右から2番目)



帯広市・米沢 則寿市長
御挨拶



前年度優勝トロフィー返還



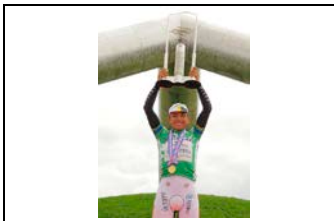
選手宣誓
山本 元喜/鹿屋体育大学



スタートを待つ選手

b. 最終表彰式

平成23年9月19日(月)札幌市モエレ沼公園特設会場



個人総合時間賞
13 ルビアーノ チャヴェス
ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO



総合ポイント賞
リケーゼ マッシミリアーノ
ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO



総合山岳賞
ルビアーノ チャヴェス
ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO



チーム総合時間賞 1位ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO
2位シマノレーシング / 3位マトリックスパワータグ



U23 賞総合時間賞
黒枝 士揮/鹿屋体育大学

イ. 競技種目と月日・場所

第1ステージ 198km(帯広市～標茶町)

- a. 平成23年9月16日(金)、帯広市中央公園から帯広市長 米沢 則寿氏の号砲により午前9時30分に99名の選手が標茶町多和平展望台のフィニッシュ地点を目指して一斉にスタートした。
- b. 通過市町村は、帯広市、音更町、池田町、本別町、足寄町、釧路市、弟子屈町、標茶町の2市6町である。
- c. 第1ステージの完走者は79名で、その成績結果は次のとおりである。
- (i) 個人区間順位 1位 西藺 良太(シマノレーシング) 4時間35分48秒
 - (ii) 個人区間順位(U23) 1位 黒枝 士揮(鹿屋体育大学) 4時間37分02秒
 - (iii) 個人総合時間順位 1位 西藺 良太(シマノレーシング) 4時間35分48秒
 - (iv) 個人総合時間順位(U23) 1位 黒枝 士揮(鹿屋体育大学) 4時間37分02秒
 - (v) 個人総合ポイント順位 1位 西藺 良太(シマノレーシング) 25ポイント
 - (vi) 個人総合山岳順位 1位 ルビアーノ チャヴェス (ダンジェロ&アンテヌッチィ - NIPPO) 7ポイント
 - (vii) 団体区間順位 1位 シマノレーシング 13時間47分35秒
 - (viii) 団体総合時間順位 1位 シマノレーシング 13時間47分35秒
- d. 午後3時00分から、標茶町多和平展望台特設会場において表彰式が行われ、標茶町長 池田 裕二氏からリーダージャージが授与された。



第2ステージ 210km(弟子屈町～鹿追町)

- a. 9月17日(土)弟子屈町川湯園地から、午前9時30分弟子屈町長 徳永 哲雄氏の号砲で79名の選手が一斉にスタートした。
- b. 通過市町村は、弟子屈町、津別町、陸別町、足寄町、上士幌町、士幌町、鹿追町の7町である。
- c. 第2ステージの完走者は74名で、その成績結果は次のとおりである。
- (i)個人区間順位 1位 山下 貴宏(マトリックスパワータグ) 5時間20分38秒
 - (ii)個人区間順位(U23) 1位 山本 元喜(鹿屋体育大学) 5時間20分38秒
 - (iii)個人区間ポイント順位 1位 山下 貴宏(マトリックスパワータグ) 25ポイント
 - (iv)個人区間山岳順位 1位 増田 成幸(宇都宮ブリッツェン) 17ポイント
 - (v)個人総合時間順位 1位 西菌 良太(シマノレーシング) 9時間56分30秒
 - (vi)個人総合時間順位(U23) 1位 黒枝 士揮(鹿屋体育大学) 9時間57分54秒
 - (vii)個人総合ポイント順位 1位 狩野 智也(チームブリヂストンアンカー) 30ポイント
 - (viii)個人総合山岳順位 1位 増田 成幸(宇都宮ブリッツェン) 17ポイント
 - (ix)団体区間順位 1位 マトリックスパワータグ 16時間02分22秒
 - (x)団体総合時間 1位 シマノレーシング 29時間50分11秒
- d. 午後3時15分から、鹿追町経済観光交流館前にて表彰式が行われ、鹿追町長 吉田弘志氏よりリーダージャージが授与された。



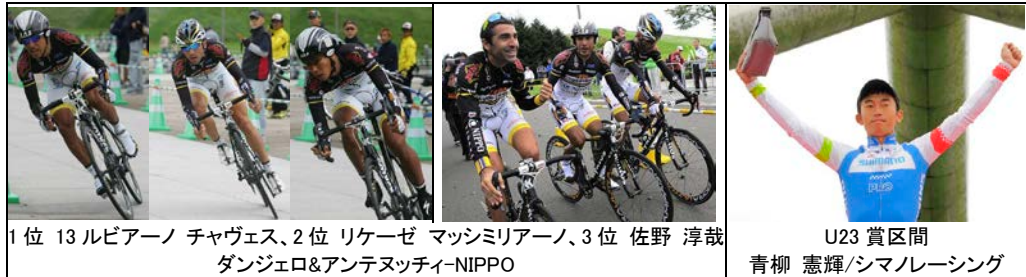
第3ステージ 171km(占冠村～江別市)

- a. 9月18日(日)、占冠村占冠中学校前から江別市野幌総合運動公園まで、ツール・ド・北海道2011においてタウン to タウンで走る最後のロードレース。午前9時30分に占冠村長 中村 博氏の号砲で74名の選手が一斉にスタートした。
- b. 通過市町村は、占冠村、日高町、平取町、むかわ町、夕張市、栗山町、岩見沢市、長沼町、南幌町、北広島市、江別市の4市6町1村である。
- c. 第3ステージの完走者は71名で、その結果は次のとおりである。
- (i) 個人区間順位 1位 佐野 淳哉(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO)
3時間56分40秒
 - (ii) 個人区間順位(U23) 1位 早川 朋宏(法政大学) 3時間56分40秒
 - (iii) 個人区間ポイント順位 1位 佐野 淳哉(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO)
25ポイント
 - (iv) 個人区間山岳順位 1位 ルビアーノ チャヴェス(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO)
5ポイント
 - (v) 個人総合時間順位 1位 ヤン キュング(大韓民国自転車競技連盟チーム)
13時間53分19秒
 - (vi) 個人総合時間順位(U23) 1位 黒枝 士揮(鹿屋体育大学) 13時間54分34秒
 - (vii) 個人総合ポイント順位 1位 リケーゼ マッシミリアーノ(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO)
40ポイント
 - (viii) 個人総合山岳順位 1位 ルビアーノ チャヴェス(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO)
20ポイント
 - (ix) 団体区間順位 1位 ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO 11時間50分00秒
 - (x) 団体総合時間順位 1位 ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO 41時間41分09秒
- d. 午後2時20分から、江別市野幌総合運動公園特設会場にて表彰式が行われ、江別市長 三好 昇氏よりリーダージャージが授与された。



第4ステージ(個人タイムトライアル 2.75km)札幌市モエレ沼公園

- a. 9月19日(月)札幌市モエレ沼公園特設コースで競技を行った。午前9時(財)日本自転車競技連盟会長 富原 忠夫氏の号砲で71名の選手がスタートした。
- b. 第4ステージの完走者は71名で、その結果は次のとおりである。
- (i)個人区間順位 1位 ルビアーノ チャヴェス(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO) 3分20秒36
- (ii)個人区間順位(U23) 1位 青柳 憲輝(シマノレーシング) 3分31秒70
- c. 午前10時30分 札幌市モエレ沼公園特設会場において表彰式を行い、大会実行委員長 勇崎 恒也氏から区間賞が授与された。



午前10時40分、札幌市モエレ沼公園特設会場で、ツール・ド・北海道2011最終表彰式が行われた。

(i)個人総合時間順位

- 1位 ルビアーノ チャヴェス(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO)13時間56分47秒
- 2位 ジャン キュング(大韓民国自転車競技連盟チーム) 13時間56分50秒
- 3位 カンパニョーロ シモーネ(ダンジェロ&アンテヌッチィ - NIPPO) 13時間57分09秒

(ii)個人総合ポイント順位

- 1位 リケーゼ マッシミリアーノ(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO) 49ポイント
- 2位 ルビアーノ チャヴェス(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO) 47ポイント
- 3位 佐野 淳哉(ダンジェロ&アンテヌッチィ - NIPPO) 42ポイント

(iii)個人総合山岳順位

- 1位 ルビアーノ チャヴェス(ダンジェロ&アンテヌッチィ-NIPPO) 20ポイント
- 2位 増田 成幸(宇都宮ブリッツェン) 17ポイント
- 3位 ジャン キュング(大韓民国自転車競技連盟チーム) 11ポイント

(iv)団体総合時間順位

- 1位 ダンジェロ&アンテヌッチィ - NIPPO 41時間51分20秒
- 2位 シマノレーシング 42時間01分01秒
- 3位 マトリックスパワータグ 48時間29分26秒

(v)個人総合時間順位(U23)

- 1位 黒枝 士揮(鹿屋体育大学) 13時間58分14秒
- 2位 山本 元喜(鹿屋体育大学) 13時間59分31秒
- 3位 中尾 佳祐(順天堂大学) 14時間03分41秒

成果

25回目である今大会は、まずまずの天候に恵まれた。ロードレースは帯広市中央公園前をスタートし、最終は江別市野幌総合運動公園をゴールとし、3日目の占冠村から江別市のステージは一時雨に当たったが、各ステージで選手達はそれぞれの力を出し切り、道東・道央地域の大自然の中、伸び伸びとレースができた。

本格的な国際大会としても15回目を迎え、着実な歩みを続けており、これまでのツール・ド・北海道の開催実績とその成果が、大会運営等についても十二分に発揮された。

今年も海外チームを招待し、国際色あふれる競技に道民の関心も年々強くなっており、各ステージともかなり多くの観客があり(42,440人)、スピード感あふれる自転車競技に通過地の沿道から熱心な声援が送られた。

また、大会後は地元民放テレビ局及び全国BS・CS放送で放映され、さらに当協会のホームページも大会期間中には高いアクセス数(1,852,286件)で推移し、成果を十分に周知することができた。

2. 予想される事業実施効果

ツール・ド・北海道の開催により、北海道における観光資源及び産業の開発・文化の振興・生活の向上等に貢献すると共に、自転車による健康と体力の増進に一層の関心を深め、また、わが国におけるサイクルスポーツの普及・振興及び自転車利用の普及・啓発になお一層の貢献が期待できる。

3. 本事業により作成した印刷物

ポスター(大)	1,000枚	
ポスター(小)	5,000枚	
ガイドブック	10,000部	
テクニカルガイド	500部	
選手名簿	3,000部	
交通規制チラシ	45,000枚	(3種類)
事業報告書	650部	

4. 事業内容についての問い合わせ

団体名：財団法人 ツール・ド・北海道協会

担当者名：事務局長 鈴木 秀之

住所：060-0004

札幌市中央区北4条西6丁目1-3 北四条ビル4階

電話番号：011-222-5922

F A X：011-232-4604

E-mail：suzuki@tour-de-hokkaido.or.jp

U R L：<http://tour-de-hokkaido.or.jp>